

全国の優良経営体事例を紹介

全国の優良経営体の取組事例を農林水産省のHPから閲覧が可能です。是非ご覧下さい。
URL：https://www.maff.go.jp/j/nousin/nouti/einou_info/e_keiei_zirei/
(または、農林水産省HP トップページから「優良経営体事例」で検索。)
令和元年度にとりまとめた事例の一部を紹介いたします。

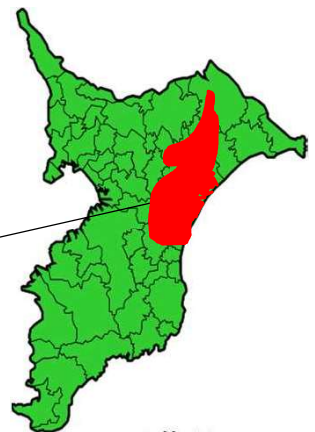
事業を契機に水田での大規模な麦・大豆栽培 両総地区での取組事例

国営両総地区(千葉県)では農業用排水路の改修とあわせて、ほ場整備事業により区画整理、暗渠整備を行いました。事業により、ほ場の排水性が向上したことをきっかけに、水稻に加え小麦や大豆栽培に取り組むことで農業経営委の安定化を図っている営農組合の事例を紹介します。

◇ 事業の概要

事業種：国営かんがい排水事業、県営ほ場整備事業
場所：千葉県東金市他
受益面積：17,970ha(水田)
事業期間：H5年度～H26年度
事業目的：用水改良、排水改良

両総地区



千葉県

事例 1

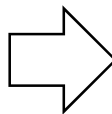
地域農業の受け皿として地域に根ざした活動を実施

きたしみず

～ 北清水営農組合(千葉県山武郡横芝光町) ～

◇ 経営体の概要

組合設立当初：平成12年度
(H10. 7月設立)
基幹作物：大豆
経営面積：6.8ha



現在：令和元年度
基幹作物：水稻(主食用米、飼料用米)、
麦、大豆
作業受託面積：水稻 21.5ha
麦・大豆 25.8ha

◇ 取組の経緯と経営転換のポイント等

関連事業のほ場整備事業の実施を契機に、地域の土地利用型農業を兼業農家による個別経営から転換することを目的として、平成10年度に本営農組合を設立。平成13年度から地域を3ブロックに分け3年4作(水稻・水稻・麦・大豆)の計画的なブロックローテーションを行っている。現在では、地域農家のほとんどが本営農組合の組合員となり水稻作業を委託している。

委託内容は水稻の収穫・乾燥調製、農産物の加工に加え、平成19年度以降は地域の要望に応じ、田植え等基幹作業を含む水稻全般の作業受託に取り組んでいる。また、ほ場整備の進展に伴い農地の利用集積が進み、令和元年度の北清水地区での集積率は70.3%、(R元年度千葉県集積率23.9%)となっており、遊休農地の発生を未然に防止している。



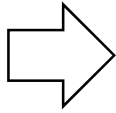
汎用コンバインによる小麦の収穫

事例2

基盤整備等における先進的技術の導入が叶える集落ぐるみの営農 ～ 農事組合法人 篠本営農組合(千葉県山武郡横芝光町) ～

◇ 経営体の概要

組合設立時：平成23年度
(H23.2月設立)
基幹作物：水稻(主食用米)
経営面積：36.7ha



現在：令和元年度
基幹作物：水稻(主食用米、古代米)、麦、
大豆、ねぎ、落花生、たまねぎ等
経営面積：51ha

◇ 取組の経緯と経営転換のポイント等

本営農組合は関連事業であるほ場整備事業の実施にあたり、地域の稲作を兼業農家による個別経営から集落単位で取り組むことを目指して設立した。集落単位での組織の立ち上げにあたり、本営農組合の集落を含む3集落で調整し、集落間の出入り耕作を低減するよう農地の集積、集約を行った(平成22年度に集落ごとに組織を設立)。

ほ場整備事業により、大区画化や排水性の改善が図られ汎用化されたことで、自律走行型コンバイン等の大型機械の導入が可能となり、作業時間が大幅に削減された。

さらに、地下水位制御システム(FOEAS)の導入により、地下水位を管理することで、水稻栽培時の水管理の省力化や水田の畑利用に繋がっている。



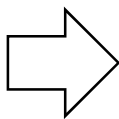
水田で栽培した
落花生を積み上げた
「らっかぼっち」

事例3

水稻部門の協業化により施設園芸を基幹とした安定的な農業を展開 ～ 中古 利一氏(千葉県長生郡白子町) ～

◇ 経営体の概要

事業実施前：平成3年度
基幹作物：トマト(施設)
経営面積：1,000㎡
(鉄骨ハウス1棟)



現在：令和元年度
基幹作物：トマト(施設)
経営面積：315㎡(パイプハウス2棟)
5,900㎡(鉄骨ハウス5棟)
※水稻5.8ha(営農組合での管理担当分)

◇ 取組の経緯と経営転換のポイント等

本経営体は水稻とトマト栽培を行っており、水稻は作業受託組織の構成員として作業を行っている。

ほ場は用水の末端部に位置するため、適期に十分な用水量を確保することに支障を来していたが、国営両総用水事業により用水が管路化され、計画的な用水利用が出来るようになっている。

地域の作業受託組織として平成16年度に設立された「農事組合法人南白亀営農組合」の構成員となることで水稻の作業計画が立て易くなり、水稻繁忙期とトマト作業が重複しないよう計画的に栽培可能となった。トマトの栽培管理作業も計画的に行うことで、可販果率が向上しており、今後、更に品質の高いトマト栽培を目指している。現在は高品質のトマトを「長生(ながいき)トマト」ブランドとして出荷し、有利販売を実現している。



トマトの養液栽培

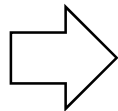
事例 4

夫婦で認定農業者、後継者とともに高付加価値型農業を展開

～ 板倉 衛氏・小百合氏(千葉県大網白里市) ～

◇ 経営体の概要

経営開始当初：平成10年度（経営移譲）
基幹作物：水稻(主食用米)、ねぎ
とうもろこし、そらまめ等
経営面積：6.3ha



現在：令和元年度
基幹作物：水稻(主食用米)、とうもろこし、
ねぎ、トマト、きゅうり、
そらまめ、ブロッコリー等
経営面積：10.5ha

◇ 取組の経緯と経営転換のポイント等

本経営体は事業を契機に、平成18年度法人化された「農事組合法人細草ライスセンター（前身営農組合は平成4年度設立）」へ水稻の基幹作業を委託している。また、事業により末端ほ場まで管路化されたことから、水稻の水管理が容易になっている。

その結果、きゅうりの播種を前倒しでき、以前と比較して価格の高い時期に出荷可能となった。また、パイプハウスの面積が経営開始当初の平成10年頃の590㎡から、現在1,840㎡と3倍以上増加している。夫婦とも認定農業者として意欲的に取り組んでおり、千葉県のエコファーマーに認定され、地域の畜産農家の堆肥を利用した土づくりや、天敵生物による生物防除を導入して農薬散布回数を減らす等、持続性の高い農業を行っている。



後継者が栽培しているねぎ

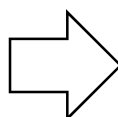
事例 5

丁寧なほ場管理と効率的な作業により地域的水稻作を支える

～ 河野 仁男氏(千葉県山武市) ～

◇ 経営体の概要

水稻専作前：平成13年度
基幹作物：水稻、だいこん、ねぎ
経営面積：7.6ha（田：5ha、畑：2.6ha）



現在：令和元年度
基幹作物：水稻(主食用米、加工用米)
経営面積：55ha

◇ 取組の経緯と経営転換のポイント等

本経営体のほ場は、平成2年度に完了したほ場整備事業により、大型機械の導入が図られた。また、国営両総用水事業等によって管路化され農業用水の安定供給が可能となり、以降、農地の集積を進める中で、丁寧な栽培管理が地域農家の信頼につながり堅調に経営規模の拡大が図られてきた。

経営においては、乾燥調整、籾処理等の施設の効率化とコスト低減を図り、また、ほ場特性に応じた品種選定、栽培の工夫を行いつつ地域農業を担う家族経営として経営の継承も模索している。

本経営体は平成13年以前は、水稻、だいこん、ねぎを栽培していましたが、地域的水稻収穫作業等を受託していた近隣のライスセンターが解散したことをきっかけに、地域的水稻栽培を担うため水稻と野菜の複合経営から水稻単作に転換し、本地域における家族経営体による水稻単作の先導的事例となっている。



丁寧に管理しているほ場